



# 文化と賑わいの新拠点 梅小路

市民の憩いの場として多くの人々に親しまれる梅小路公園。4月には京都鉄道博物館がオープンするなど、文化と賑わいの拠点として、これまで以上にたくさんの観光客で賑わっています。さらに、平成31年には本所が要望していた七条通付近の新駅設置が予定されるほか、京都市中央卸売市場の再整備に向けた取り組みが進むなど、京都駅西部エリアの魅力は今後ますます高まることが期待されます。

こうした整備の背景には、梅小路界隈で事業を行う企業・団体による地域に根差した取り組みがあります。今回は、梅小路をはじめとする京都駅西部エリアの賑わいづくりを担うキーマン取材し、地域の特性を生かしたまちづくりについて考察します。

# 京都・梅小路みんながつながるプロジェクト

(京都・梅小路まちづくり推進協議会)



場に親子連れで楽しめるイベントを開催する予定だ。

同プロジェクト事務局の林さんが「プロジェクトだけが独り歩きするのではなく、地域住民や地元のお店街が一体となって知恵を出し合っていくことが大切」と話すように、京都駅と梅小路公園をつなぐ中間エリアでも地域と連携したイベントに取り組んでいる。

今年2月には、「京都・梅小路てくてくバル&スイーツ」を開催した。エリア内に暖簾を構える飲食店や和菓子店、老舗ろうそく店や帆布店など25店舗が参加し、イベント期間に合わせてそれぞれ趣向を凝らした限定メニューを提供。

「将来的には地域の中でいろんなイベントが連続的に生まれ、そこを拠点に多くの人が集まってく。そんな活気ある町になればと思っています」。

平成31年春には、嵯峨野線の京都～丹波口駅間で新駅設置が予定され、梅小路エリアへのアクセスはますます便利になる。従来の歴史文化資産だけでなく、梅小路公園でイベントを楽しみ、京都水族館や京都鉄道博物館で学び、京ブランドの食を味わい、地域で暮らす人たちの営みに触れる。一日中、そこに滞在して楽しんでいられる、そんな魅力を持った梅小路エリアの新たなまちづくりに期待したい。



京都・梅小路みんながつながるプロジェクト  
京都・梅小路まちづくり推進協議会  
事務局長 小野佳典さん(右:西日本旅客鉄道株式会社 京都支社 総務企画課長)  
林成人さん(左:京都駅ビル開発株式会社 営業部 企画課長)  
<http://www.kyoto-umekouji.com/>



「京都・梅小路てくてくバル&スイーツ」(左)や「太陽と星空のサーカス」(右)など、さまざまなイベントを実施している。

京都駅から梅小路公園周辺のエリアに所在する企業を中心に37の団体が構成する「京都・梅小路みんながつながるプロジェクト」(京都・梅小路まちづくり推進協議会)。「屋外イベントの開催やエリアガイドの発行など、地域に暮らす市民とともにエリアの回遊性や持続的な賑わいづくりに取り組んでいる。このエリアの特徴は、「京都の玄関口・京都駅前の商店街ゾーン」「梅小路公園を中心とした文化ゾーン」「地域の人が暮らしやすい居住ゾーン」という性格の異なる地域で構成されていることだ。同プロジェクトでは、それぞれの地域特性を生かした戦略的な取り組みをミックスさせることで、エリア全体の魅力を面で高めようと考えている。

その取り組みの中心となるのが、京都水族館や京都鉄道博物館などで賑わいを見せる梅小路公園。「京都駅からほど近い都市型公園で、大きなポテンシャルを持っている。まずは、この貴重な資源を拠点にして、地域活性化を進めていきます」と同プロジェクト事務局長の小野さん。公園内に案内サインやモニュメント、ベンチ等を整備したほか、食に関するフェスティバルやライトアップなどを実施。観光客が少ない冬期や夜間に開催することで、1年を通して賑わいのあるまちづくりを目指している。今年度は、「京の七塔」と連携し、梅小路公園を会

## KYOCA FOOD LABORATORY

梅小路公園の七条入口に面し、京都市中央卸売市場に隣接する京果会館は、2014年に「食とデザイン」をテーマとした商業施設「KYOCA Food Laboratory(以下、KYOCA)」として生まれ変わりました。この取り組みをプロデュースした岡村充泰さん(株式会社ウエダ本社 代表取締役社長)に、KYOCAと地域の関わりについてお聞きしました。

3階レンタルスペース「hacoba」でのイベントの様子。



岡村 充泰さん

「食」をテーマに、梅小路の町からイノベーションを発信できないかと考えています。イノベーションを生み出すには、多様性が必要です。異分野、異業種、さまざまな考えを持った人たちがクロスさせ、化学反応が生まれる仕組みづくりにこだわりました。KYOCAには、新鮮な素材を使ったさまざまなレストランやショップが入居していますが、例えば1階には、新規就農者を支援するソーシャルベンチャーが、2階にはスイーツの福祉作業所が入居しています。3階のレンタルスペース「hacoba」では、食に関するワークショップやセッション、パーティーなどさまざまなイベントを開催しています。KYOCAを拠点に多様なヒト、モノ、コトが集積する町を作っていけたらと考えています。



KYOCA FOOD LABORATORY  
http://kyoca.jp/ 住所/京都市下京区朱雀正会町1-1

加してもらおう…。そんなふうにご家族で梅小路エリアに滞在していただけの時間を増やすことで、町の新たな魅力が掘り起こされ、賑わいの芽が育っていくのではないかと思います。

KYOCAは、伝統ある京果会館をリノベーションして生まれた建物です。リノベーションの魅力は、ゆっくりと時間をかけて、建物の価値を高められること。今、梅小路エリアの都市開発が進んでいますが、これまで地域の中で培われてきた建物の伝統、文化を生かしながら、京都ならではの食の魅力を発信していきたいと思っています。



### 多様性の掛け合わせで 京都発、「食」のイノベーション

## 京都市中央卸売市場

昭和2年、現在の場所に開設されて以来、今日まで関西圏の食をまかなう台所として大きな役割を果たしてきた京都市中央卸売市場。まもなく再整備に向けて建て替え工事が始まろうとしています。その発展を60余年にわたり支え続けてきた本所常議員の池本周三さん(京都市中央卸売市場協会会長/京都全魚類卸協同組合理事長)に、地域における中央卸売市場の役割についてお聞きしました。

たくさんの来場者で賑わう夏まつりの様子。今年は8月27日(土)に開催されます。



池本 周三さん

京都市中央卸売市場(第一市場)は全国に先駆けて誕生した中央卸売市場です。梅小路にある貨物駅にほど近く、交通の便がたいへん良かったこと、また京都には独自の食文化が花開き、目利きの消費者が多かったことなどから、各地から新鮮な魚や野菜がどんどん市場に集められました。私たち仲卸の役目は、それらの商品の善しあしを判断し、適正な価格をつけて皆さんのもとに届けること。平成25年12月、和食がユネスコ無形文化遺産に登録されましたが、私たちは流通の面からその発展を支えてきたと自負しています。

現在、梅小路エリアを中心とした周辺地域の魅力を高める施策が進められています。嵯峨野線の新駅設置も控える中、市場も40年ぶりに整備され、平成34年にまず水産棟が、平成41年に青果棟が装い新たにリニューアルする予定です。従来から市場では、食彩市や鍋祭りのほか、市内の小学校に向いて魚を調理して食べてもらう食育教室など、さまざまな地域貢献の取り組みを行ってきました。今後は、関西圏の食をまかなう拠点として、多様化する消費者ニーズに 대응していくとともに、さらなる魅力の創出を目指して、七条通に面するエリアに市場直送の新鮮



京都市中央卸売市場  
住所/京都市下京区朱雀分木町



### 食をまかなう市場の活性で 新たな賑わいの核を創出

な食材を味わったり、京都のブランド商品のショッピングを楽しんだりできる滞在型の賑わい施設を整備していこうと考えています。

梅小路エリアには、京都鉄道博物館や京都水族館だけでなく、島原に代表される歴史的な文化遺産がたくさん残されています。地域に埋もれた文化を掘り起こし、私たちが90年間培ってきた知恵やノウハウ、ネットワークを絡め合わせることで、これからの賑わいの核となる新しい付加価値が生まれるかもしれません。食を担う市場が元気になることで、地域が活性化していく…。そんな地域を目指しています。